

応募者名	茨城県/ピクシーダストテクノロジーズ株式会社	分野	誰一人取り残されない社会
取組名称	AIと音声認識活用による聴覚障害者（職員・来庁者）への合理的配慮	取組地域	茨城県全域

概要	
取組内容	『技術・音声分離技術で、「誰が」「何を」話したかをリアルタイムに可視化・独自アルゴリズムで360°全方向からの音声を高精度で集音し、音声方向特定と音声テキスト化をリアルタイムに実現・生成AIによるリアルタイム要約』 『地域の課題・聴覚障害者と聴者との間には、特に複数名での会話が難しいという課題がある・茨城県では、来庁者及び県庁内や関係機関等で働く聴覚障害者への情報保障を課題と捉えた・VUEVO導入により、理解度の向上、コミュニケーションの円滑化及び事務作業の効率化を図った』
実績や効果	今年度、スモールスタートで2台を導入したが、予約の空きが少ない状況であるため、来年度更なる導入拡大を図る予定である。聴覚障害者が社会の一員として積極的に参加できる環境を整えることで、社会全体のインクルージョンを進めることができ、個々の能力を最大限に発揮できる社会の実現に寄与できる。
取組全体を通じて訴えたいポイント	県の独自制度や仕組みにより、地場民間企業の技術を県政に取り入れ、合理的配慮や業務効率化といった重要テーマへの素早い取り組みを実現している。高齢化による難聴者の増加や労働力の減少といった、日本全国及び世界で抱える共通課題に対して官民一体となった取り組みである。

詳細	
地域の課題解決・魅力向上	聴覚に障害がある職員が他の職員と円滑にコミュニケーションを取れる環境を提供することで、職員全体の協力体制を強化し、地域の多様な人材の活用を推進する取り組みである。また、来庁者への対応拡充を含めて茨城県全体の行政サービス向上にも寄与し、よりインクルーシブな社会の実現を目指している。
独自性・先進性	『独自性・県独自の事業者認定制度により、新技術の素早い公共調達を実現・生成AIを活用した、障害の有無を問わない双方向のコミュニケーション実現や生産性向上』 『先進性・合理的配慮義務化への即時対応・地方自治体の標準であるLGWANからインターネットへの切替で幅広いサービスを選択可能』
持続性・発展性	『持続性・社会として欠かすことのできないコミュニケーションへの取り組みである』 『発展性・県庁にとどまらず、関係機関や学校病院など様々な場面での応用可能性・聴覚だけでなく、外国語のリアルタイム翻訳機能による外国籍の住民とのコミュニケーションへの活用が可能』
他地域への横展開	・導入実績：厚生労働省、大成建設、コクヨ、三井不動産、PLUS、オムロン、NEC、SMBCグリーンサービスなど多数 ・「令和6年度情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金」への採択 ・（公財）東京観光財団の「TOKYO MICEテクノロジー導入ガイドライン」への掲載
取組を進めるうえで苦労した点	聴覚障害者と健聴者の間のコミュニケーション方法に対する技術的な理解のギャップを埋めるため、利用者教育に時間を要した。また、多様なニーズに応じたシステムの柔軟な適応が必要で、調整に多くの労力を要した。特に現場からのフィードバックを反映し、使い勝手の向上させること多くの時間を割いた。
取組の成果を上げることが出来た秘訣・工夫	聴覚障害を持つ職員や来庁者のニーズを事前にしっかりとヒアリングし、それに基づいて最適なコミュニケーションツールについての検討を行った。また、利用者からのフィードバックを定期的に収集し、必要に応じた改善を行うことにより、利用者の満足度を高め、ツールの効果を最大化できた。
今後の展望	聴覚障害者への情報保障に加え、AIを活用した業務効率化を茨城県全庁で推進する。また、茨城県は在留外国人数が全国で第10位であり、さまざまな言語での行政サービス提供や情報発信も重要な課題となっている。これにより、より多様なニーズに対応し、誰もが利用しやすい行政サービスの実現を目指す。